

学習新聞づくりを通じた教育活動

東京都練馬区立豊玉第二小学校教諭
増田 隆一

「考える力を伸ばす取り組み」

教科や総合的な学習の時間等で学んだことをまとめ、新聞の形につくりあげる学習新聞活動。この活動を授業に取り入れ、積極的に推進している東京都練馬区立豊玉第二小学校の増田隆一先生に、その効果や内容などについて、ご紹介いただきました。



本校では、平成15年度よりNIEの活動に参加し、学習新聞づくりや新聞活用などの活動を取り入れていきます。ここでは、学習新聞づくりの実践について紹介していきたいと思

います。学習新聞とは、教科・領域・総合的な学習の時間等で学んだことや行事の取り組みなどを新聞の形にしたものです。

学習新聞づくりのねらい

- ・さまざまなメディアから収集した資料や自分で取材したこと等をどのようにまとめ、加工していくかという情報処理能力の育成。

- ・読んでもらうことを意識して、見出しや写真・イラスト等レイアウトを工夫し、文章表現による考える力の育成。

- ・出来上がった新聞を印刷したり、掲示したりして、お互いの新聞を読み合うことでの評価活動や集団づく

り等。以上が学習新聞づくりのねらいとして考えられます。

6年生では、歴史学習の中で学習新聞づくりをよく行いました。学習新聞に沿って児童一人ひとりが調べたものを最後に新聞という作品にまとめていくものです。調べる活動は、図書資料からインターネット、インタビュ

ー等さまざまな活動が展開されますが、資料を丸写しする傾向が見られたため、「内容は難しくなりすぎないよう自分の言葉に直して書く」「見出しは自分の主張したいことを簡潔に」ということを繰り返

し行うように心掛けてきました。そのため、調べた内容をさらに辞書で調べたりして、読み手を意識しての活動が増えてきました。新聞の見出しはまさしく自分の考えが現れてきます。戦国時代での「信長、秘密兵

器『鉄砲』使う」や戦争中での人々の暮らしでの「大変だった衣食住」などの学習新聞の見出しには、その調べたまとめの言葉が見られます。

また、最後には、必ず「感想欄」や「社説欄」を設け、自分の意見や考えを入れるようにします。そこでさらに自分がどのような考えをもったかを考え直すことができます。

見やすい工夫を

さらに学習新聞は、読み手が見てよく分かるように、提示する新聞には、しっかりと色付けをさせ、写真やイラストも入れるように指導して

います。最近の子どもたちは、実にさまざまな色ペンをもっています。色をつけることで雰囲気はいつべんに変わります。写真資料は、今では簡単にスキャナーで読み取って、縮小・拡大して印刷してあげられるようになりました。数年前と比べると

見栄えは格段の違いです。また、パソコンを使ってつくることも容易になりました。梓さえつくっておけば、子どもたちはほとんど文字を打っていきます。デジカメを使つて写真の貼り付けも簡単で、やり直も

できます。6年生では、移動教室の学習のまとめで新聞づくりをし、書きとパソコンのどちらかを選択させて取り組ませました。パソコンではあまり字を書くのが上手でない児童にとっては、非常に意欲的に取り組むことができ、出来上がりの達成感が普段とは全く違いました。現在では、パソコン新聞づくりのソフトもでてるので、それを使うのもいいかもしれません。

内容の工夫を

さらに、6年生の歴史学習新聞づくりでは、当時の人々の立場に立つて考えることが重要です。当時の

人々の立場で取材して記事を書いたリインタビューをしたりすることで、自分の考えがさらに深まり、定着していくものと考えています。「キリスト教についての信長へのインタビュー」記事を載せる「黒船が着いたときの人々の驚きを記事にする」ことで記事の言葉は当時の生々しい感じを再現してくれます。ある児童は、「信長も絶賛！浅井長政著『戦いのススメ』百二十万部突破！（安土文庫）」などの広告を書き入れました。パロディではあっても歴史の事実に沿ったものであれば、それらを取り入れることで、さらに活動が意欲的になってきます。なお、「新聞日本史」のような日本の歴史を上手に新聞にまとめたものも発売されているので本学級では参考にしています。

読み合うことで

さらにパワーアップ！

学習新聞づくりでは、新聞ができたことで安心して活動が終了してしまふことがあります。そこで、「発表による自己評価活動」と「相互評価活動」を取り入れることにしています。出来上がった学習新聞を手に「調べて分かった事実」「調べて考えたことや感想」「新聞づくりで工夫

した点」などについて自己評価し、発表していきます。そして、掲示した新聞を各児童が付箋を手に相互評価して、「良い点」や「改善点」(なるべくよいところを見つけるよう指導)を見つけ貼っていきます。そこで自分の学習新聞をもう一度振り返

ることになります。そして、指摘された点を次の新聞づくりに生かしていく。このような活動を取り入れることで、教師側も児童の評価にずいぶん生かせるようになってきました。学習新聞は、新聞スクラップや新聞記事を活用した授業など、新聞に

触れ、新聞を活用する機会を多く持つことでさらによいものへと生まれ変わります。さまざまな活動や指導法を工夫することで、これからも「一人ひとりのよさを生かした学習新聞づくり」を目指していきたいと思えます。



t s 見出しを工夫した学習新聞



t パソコンを使ってこんなにきれいに

s 当時の人々の気持になって